

◆ 業務時間・アクセス ◆

平日 午前9時～午後6時 土日祝は休業

【地下鉄堺筋線・谷町線「南森町駅」から】

2番出口を出て左へ(西へ)。阪神高速の高架に向かって進む。高架をくぐったところになにわ北府税事務所があるので、その手前で左に曲がり、高架沿いに直進(南下)。1つ目の信号(西尾倉庫・みなみの森保育園の手前)で右に曲がると、右手に西天満郵便局がある。その3軒西隣が西天満コートビルです。



【地下鉄堺筋線・京阪「北浜駅」から】

26番出口を出てすぐの難波橋を渡る。2つ目の信号(Y字路の交差点「西天満1東」)を横断せず右へ進むと阪神高速の高架があるので、その手前の信号「菅原町西」で堺筋を北へ横断。高架沿いに直進(北上)し、2つ目の信号(左手に西尾倉庫・みなみの森保育園の看板)で左に曲がると、右手に西天満郵便局がある。その3軒西隣が西天満コートビルです。



(2021(令和3)年5月31日撮影)
細谷優子 永田ひとみ
坂和章平弁護士 家永文佳



最新刊!『シネマ48』
(2021年7月出版)
(定価1,200円(税込み))

コロナ禍が続く中、暑中お見舞い申し上げます。

第1 コロナ敗戦!ワクチン敗戦!

1)本稿執筆中の5/31現在、五輪中止は未だ決定していないが、中止は必至。4/25から5/11までとして発出された3度目の緊急事態宣言は、5月末まで延長、さらに6/20まで再延長されたが、人流抑制と休業要請を巡る混乱は目を覆うばかりだ。昨年2月から続くコロナ禍で、観光・旅行・ホテル、飲食業界はもとより、エンタメ業界からの悲鳴と職を失った人々の悲痛な叫びが日本中に響き渡っている。これでは、さすがに日本国民も我慢の限界だろう。
2)欧米とは1桁も2桁も違う、1日数千人の感染者に日本の医療はなぜ対応できないの?「病床不足」を叫び、「医療体制逼迫」と狼狽する前に、医師や病院、医師会を含む「医療のあり方」という根本問題にメスを入れることが不可欠だ。
3)コロナ敗戦の根本原因はワクチン戦略の失敗(ワクチン敗戦)だが、そのまた根本原因は日本の民主主義の劣化と日本人の思考回路の劣化にある。一人一人の日本人が胸に手をあてて、その

ことをしっかり考える必要がある。ワクチン開発には膨大な人・カネ・時間が必要だから、日本だけではムリ。それはわかっているが、そうだからこそその知恵は日本にないの?

第2 バイデン新政権は?日米の絆は?

1)7500万票 vs 7100万票でトランプに勝利し、1/20の就任から節目の100日目を迎えたバイデン新大統領は4/29、上下両院合同の本会議で施政方針演説に臨んだ。後方に2人の女性、ハリス副大統領とペロシ下院議長を従えた彼の演説は、①コロナ対策=2億回を超えたワクチン接種、②8年間で2兆ドル(220兆円)を投ずる経済対策(インフラ投資)の2つの施策が50%超の支持を得たから、まずまずの出来。最大の注目点はトランプ後の外交と安保だ。
2)「小さな政府」の共和党に対し、民主党が「大きな政府」を目指すのは当然だが、米国第一主義に変わる同盟の回復や民主主義の修復を唱える

彼は、トランプの対中強硬政策を修正する(弱める)のでは?そんな危惧もあったが、中国の指導者を「専制主義者」と呼び、民主主義の優位を強調して中国との競争に勝つ、との決意を示したからすごい。それに先立って4/16に実現した、初の対面方式による日米首脳会談後の共同声明に、台湾問題が明記されたことにもビックリだが、これだけやれば十分及第点のスタートだ。
3)その後のアフガンからの撤退やイスラエル vs ハマスの停戦合意等の処理もまずまず。5/21の文在寅大統領との米韓首脳会談をどう評価するかは難しいが、それ以上に大切なのは、米、日、印、豪のクアッド(日米豪印戦略対話)の構築。さあ、「米中新冷戦」を核とするバイデン新政権のお手並みは?
4)自衛隊は目下ワクチンの大規模接種で大活躍中だが、本来の任務は安全保障。2016年3月には、激論の末に制定された安全保障関連法が施行され、やっと集団的自衛権の行使が可能とされ



聖火トーチを右手に疾走する雄姿に注目!

〈ミニコラム〉

この聖火ランナーは、本物?それとも?

1)2021年7月の東京五輪の開催は不可能!私は、新型コロナウイルスがパンデミック化した昨年2月から明確にそう予言していた。そんな私だが、2019年6月には、近く重要文化財に指定される見込みの建築家・丹下健三設計にかかる代々木の(旧)国立競技場で「近代オリンピック100年・思い出の東京オリンピック1964」を見学した。
2)当時高1だった私は、故郷・松山の自宅の小さな白黒テレビで、①序盤ではメダルラッシュとなった重量挙げとレスリングに夢中になり、②中盤では男子体操の力強さに魅了され、③終盤ではマラソンでエチオピアのアベベに敗退する君原健二、寺沢徹、円谷幸吉と、オランダのヘーシングに敗退する柔道の無差別級の神永昭夫の姿に悔しがり、④最後には、女子バレーでの大松博文監督率いる「東洋の魔女」の金メダル獲得に熱狂した。
3)コロナ禍での聖火ランナーは各地で苦労したようだが、プライベートな聖火ランナー(?)なら何でもOK!?2021年の夏は、是非、こんな『シネマ48』の読破を!
2021年5月25日記



第18回オリンピック開会式



近代オリンピック100年



女子体操コマネの勇姿

た。それから5年。尖閣諸島を巡る脅威と領域警備の問題点が強まっている。“尖閣有事”の際に頼りになるのは日米同盟だが、米軍に動いてもらうためには自衛隊の行動が大前提。“台湾有事”も“尖閣有事”も起きないのがベストだが、想定することまで放棄してしまえば、“コロナ敗戦”と同じことになってしまうのでは？

第3 中国は？コロナ勝者の戦略は？

1) 5/23は全米プロゴルフの最終日。2日目に首位と2差の4位タイに浮上し、すわ、メジャー連続優勝か！と期待された松山英樹は、3日目後半のミスでスコアを崩し、結局、1オーバー、23位に終わった。彼に代わって注目を集めたのは50歳の人気者フィル・メケルソン。メジャー6回の優勝を誇る実力者も近時は予選落ちが目立っていたが、今年は1日目からトップを走り、頑強な体力と精神力を見せつけた。そんな“人間ドラマ”と共に注目されたのが、歓喜の瞬間を一目見ようと大勢のギャラリーが18番グリーンに押し寄せ、彼の周りを囲んだことだ。この“ノーマスク”、“超過密”は違反ではなく、大会公認のもので、ワクチン勝者、米国ならではの風景だった。一時は“感染者数世界一”の汚名を浴びながら、トランプとバイデンの強力な指導によって、米国はコロナ勝者となり、今や余剰のワクチンを世界に分配している。米韓首脳会談では、韓国の“おねだり”が目立ったが、米国の思惑は？

2) 米国と同様、いや米国以上に早くワクチン勝者となり、早くからアフリカ諸国にワクチン外交を展開していたのが中国。トランプから“武漢ウイルス”と罵倒されたのも、方方(ファンファン)の『武漢日記』に描かれた強烈かつ悲惨な“都市封鎖”もはるか昔。今や、幾多の政敵の追い落としに成功し、絶大な権勢を誇る“習近平同志”の強力かつ適切な指導の下、中国は早くコロナ勝者となり、春節では例年どおり15億人の民族大移動を実現させた。西欧諸国の都市は5~6月からノーマスクの人が街を歩き、レストランに人が集まっているが、今や、中国では内陸部はもとより、北京・上海等の大都市も完全な日常を取り戻している。壮大な一帯一路構想は多少のほころびを見せていたが、都市封鎖と渡航制限を徹底させた中国は、自国でのワクチン開発もその接種も早かったから、“微笑みのワクチン外交”もトップを走った。米国も西欧諸国もトランプと同じく、ワクチン接種については“自国第一主義”を貫いたが、それに比べると、中国の国際協調(？)ぶりが際立っている。日本も西欧諸国も“中国ワクチン”を信用していないが、アフリカ諸国はその恩恵を痛感しているはずだ。これなら2022年の党大会で習近平が異例の三期目の党総書記に、いや、その名も改めて、毛沢東以来の“党主席”に就任するのも間違いなしだ。

3) 新疆ウイグルの人権問題のみならず、中国の“核心的利益”たる台湾(問題)にまで言及したバイデンの対中戦略(新冷戦?)は、中国には意外だったか？しかし、大統領選挙における米中国式民主主義の混乱ぶりを“他山の石”として冷笑し、“専制主義が未来を勝ち取ることはない”との批判に対しても、「中国の発展は体制の長所を示している」と反論した中国は、一歩も引く姿

勢はない。専制主義の批判に対する「中国式民主」とは、「方向性は党が決め、その方針に沿った意見を吸い上げるもの」で、「各国はそれを受け入れるべきだ」と主張しているが、さて？民主主義は、ココ・コーラのように米国が原液を生産し、全世界で一つの味しかないようなものとは違うとの揶揄は、長期政権を見据えた習近平が「バイデンはせいぜい1期4年止まり」とタカをくくっているかのようで、余裕たっぷりに見える。また、米国に比べれば、西欧諸国は見かけほど利害が一致していないから各個撃破は可能。英国からの空母なんて“屁みたいなもの”。そう思っているかどうかは知らないが、民主主義はもとより経済・軍事・外交の劣化が進む日本は、そんな超大国・中国と今後どう向き合えばいいの？

第4 憲法改正は？安倍氏の再々登板は？

1) 日本では国会の機能不全ぶりが顕著だが、6/16までの国会会期中に憲法改正の手続に関する国民投票法改正法案が可決・成立する見込みになったのは喜ばしい。コロナ禍でやっと憲法に緊急事態条項を設けることは是非が少しだけ議論されたが、憲法9条の改正議論はもとより、“尖閣諸島有事”や“台湾有事”を巡る緊急事態(有事対応)条項の議論はゼロ。そんな中、今後の憲法改正の議論は？

2) 安倍晋三、麻生太郎、甘利明の“スリーA”が揃えば、すわ、安倍復権？！そんな警戒と期待が広がろうだが、昨年8月に持病の悪化を理由に首相を辞任した安倍氏の再々登板はありうるの？それは無理だとしても、キングメーカーとして君臨する可能性は？

第5 松山英樹と大谷翔平に拍手！

1) 2019年の全英オープンで渋野日向子が初優勝！そんなシンデレラガールの出現にも驚いたが、今年4月のマスターズでの松山英樹の優勝はそれ以上の快挙！4日間の興奮が続いた後に、大拍手！そして大感激！快挙実現のカギはどこに？レッスンプロを含む“チーム松山”の結成はその一つだが、一足先に大リーグで活躍した野茂英雄、松井秀喜との比較、検討は興味深い。TB S 1976年から続けたマスターズのTV中継は、「AON」と呼ばれた青木功、尾崎将司、中島幸幸が活躍した80年代は採算に合ったかもしれないが、それ以外はきつと赤字。45年間も海外の1スポーツイベントを中継し続けたのは異例だ。そんなTB Sが見せた、実況4代目の小笠原アナと解説者・中島幸幸の涙と55秒間の沈黙の意味は？

2) 私は、大谷翔平の「二刀流」には反対！人間離れた活躍に拍手喝采するものもいだが、ケガをしたらそれでおしまひ。やはり、人間には限界があるはずだ。そう思っていると、案の定、故障、手術を余儀なくされたが、今年の活躍はまるで超人！投手は週1度の登板だが、野手なら毎日OK。その結果、あれもあれよという間に、ホームラン王も打点王も狙える成績に。その上、二刀流を超えて、右翼を守るわ、盗塁を重ねるわ、これはまさに超人！投手としても立派な成績だが、どこかに疲れがあるのでは？毎日フル稼働していると、

不測の事態が起きるのでは？それをしっかりマネジメントするのが監督の役割だが、エンゼルス

のマドン監督はその点大丈夫？
3) 5/25に始まった“交流戦”で、阪神タイガース vs ロッテの第一戦、阪神から移籍した鳥谷敬選手が今年初のタイムリーヒット！男の意地に拍手！それはともかく、ドラフト1位野手・佐藤輝明や外国人選手が活躍する中、下馬評どおり阪神が快進撃を続けている。巨人も菅野、坂本を故障で欠く中、やりくりしながら2位をキープしているから予断を許さないが、今年優勝しなければつらくなる？私は夕食時にはいつも、日本の試合と大リーグの試合を、3台の65~70インチTVと3台のDVDレコーダーを複数のリモコンを駆使しながら観ているが、今年ほど充実している年はない。五輪の中止は確実だが、プロ野球はコロナに負けることなく最後まで続けてほしい。

第6 将棋、囲碁、大相撲

1) 将棋では、近時CMでの活躍も目立つ、18歳の藤井聡太棋聖・王位の快進撃が続いている。直近では、6/6から始まる「第92期ヒューリック杯棋聖戦五番勝負」での、渡辺明三冠(名人・棋王・王将)との激突に注目！A級10名のうち、羽生善治と佐藤康光の2人が51歳で最年長になったから、時代の変化と世代交代は明らかだ。

2) 囲碁界では、井山裕太に続く一力遼、芝野虎丸、許家元の3人の若手がタイトルを分け合う状態が続いている。女流棋士では藤沢里菜三冠、上野愛咲美二冠がしのぎを削り合っているが、2019年4月に「世界に通用する大器」として、当時10歳の英才特別採用推薦棋士第1号でプロ入りした、仲邑菫2段に注目！1年目は17勝7敗、2年目は21勝17敗だったが、3年目の今年には5/20現在で24勝2敗と大ブレイク！「人気取り」等のやっかみ半分の批判もあつたが、今や女流本因坊戦は8強までコマを進めているし、男女競合の一般棋戦でも七大タイトル戦の一つ、第46期棋聖戦の予選を突破してCリーグ入りを決めたからすごい。12歳の女の子の急速な成長に注目！日曜日のNHK杯テレビ囲碁トーナメントで早くその勇姿を見たいものだ。

3) 大相撲では、5月の夏場所でも貴景勝との優勝決定戦に勝ち、12勝3敗で2場所連続、4度目の優勝を果たした大関・照ノ富士に拍手！両ひざに巻かれた包帯は痛々しいが、落ちるところまで落ちた序二段からの驚異的なV字復活はすばらしい。7/4初日の名古屋場所では、横綱・白鵬の復活出場が実現するはずだから、モンゴル勢同士の“頂上対決”が見モノだ。大関・朝乃山の“不祥事”は残念、というより今どきの日本の若者のバカさ加減にうんざりだが、白鵬に勝って3場所連続優勝、もしくはそれに準ずる成績を残せば、感動のシーンが実現するはず。コロナ禍で7/4に投票票される都議選が盛り上がり欠けるのは確実だから、今年の夏はそんな茶番劇(？)以上の真剣勝負に注目！

2021(令和3)年盛夏(5月31日記)

坂和総合法律事務所

所長 弁護士 坂和 章平

<ミニコラム> “ワクチン敗戦” 下の “ワクチン狂騒曲” の開演をどう考える？

1) ワクチン接種率No.1の国はイスラエル。ガザ地区を巡るパレスチナとの軍事衝突は大変だが、すでにコロナには勝利した。コロナの爆発的拡大の中で“ロックダウン”を繰り返した西欧諸国も、感染者数世界一になった米国も、ワクチン接種が進む中で日常生活を取戻しつつあり、“集団免疫”獲得の日も近い。トランプ前大統領から“武漢ウイルス”と罵倒された中国は中国共産党独自の手法でコロナを克服し、今や“ワクチン外交”を展開中。それに対し、日本の接種率は2%で世界ワースト、断トツのビリ、だ。

2) 日本はGDPでは中国に追い越されたし、ジェンダーギャップ指数では120位の後進国だが、G7(主要先進7か国会議)のリーダーの立場ではなかったの？米国は既にワクチンが余ってしまったのに、なぜ同盟国・日本にワクチンが少ないの？河野太郎新型コロナウイルスワクチン接種推進担当大臣はファイザー製ワクチンの(量的)確保はできたと胸を張ったが、いつまでに接種できるのか？かつて安倍総理は、国産の抗インフルエンザ薬「アビガン」が新型コロナウイルスにも有効だと胸を張り、昨年5月中の「承認」を目指す」と表明したが、国産ワクチンはどうなっているの？

日本は1945年8/15の敗戦後、一貫して平和と安全そして経済成長を誇ってきたが、今や“ワクチン敗戦”は明らかだ。5/18付朝日新聞は「国産ワクチン治験 アジアと共同方針」と報じたが、何を今さら！

3) ワクチン接種の優先順位は①医療従事者②65歳以上の高齢者③

基礎疾患を有する者・高齢者施設等の従事者④それ以外。コロナ解決の“切り札”がワクチンだということは、昨年4/7に最初の緊急事態宣言を発出した時点で周知の事実。それから1年。医療従事者への接種も完了しないまま、高齢者に対して、④4/12からは国が支給するファイザー製ワクチンを自治体毎に接種。⑤5/17からは自衛隊による東京・大阪の大規模会場での接種予約、が始まった。ワクチン接種の遅れが政権の危機・崩壊に直結すると危惧した菅首相は1日100万回の接種という大号令も発したが・・・。

4) ④の自治体毎の接種は、夜中から並んだ、ネット予約が困難等の不満や、余ったワクチンを首長が勝手に接種、スギ薬局の社長への予約枠の優先確保、等の問題点(掟破り?)が噴出！日本列島は、自衛隊要請破りの会食者探しの他、速さと公平さのどちらを優先させるの？等のバカげた議論がさまざまな“識者”を交えて花盛りになった。他方、⑤の方は、「苦しい時の自衛隊頼み」に野党が文句を言わないのはなぜ？という論点はともかく、東京は5万人の予約枠に4.4万人だったが、大阪では26分間で2万5千人の予約枠が終了した。大阪人特有の“いらち”はここでも顕著だ。

5) ベテラン事務員のパソコン能力のおかげで、私は5/24の予約にギリギリ成功したが、こんなことで一喜一憂すること自体がナンセンス！“ワクチン狂騒曲”が開演した今、私は“冷ややかに”気持ちで今後の“バカバカしい展開”を見守りながら“みじめな結末”にならないことを願っている。 2021年5月25日記

事務所の近況報告

第1 弁護士業務

2020年7月に坂和宏展弁護士が独立したため、共同で処理している事件はあるものの、法律相談や事件処理に割く時間は少なくなった。しかし、中国関係の相談は増えているので、中国人弁護士である史林麗さんとの協議を含め、その方面と対応は確実に増えている。今後は、中国語の勉強を含め、中国関連の法律問題処理を頑張りたい。

第2 大阪電気通信大学での講義の録画収録(4頁・写真①)

昨年に続いて大阪電気通信大学で2021年に行う「映画の見方・評論の書き方 映画から見る国際コミュニケーション—日中映画比較—」と題する講義を、12/17に王先生と真剣に議論しながら録画収録。1回目の講義は好評だったので、2回目も学生たちからの反応が楽しんだ。

第3 出版関係(1) 一新日本法規の加除式本

1 『わかりやすい都市計画法の手引』

2001年に始まった「小泉都市再生」以降、都市再生特別措置法による都市再生緊急整備地域と特定都市再生緊急整備地域の指定に基づく大規模な都市づくりが広がっている。東京の八重洲、丸の内、渋谷、虎ノ門、そして大阪のうめきた、中之島、等々の事業は、民間資本を大動員した大規模なもので都市計画法の枠を大きく超えたものだ。そんな状況下でも、いやそんな状況なればこそ、まちづくりの“母なる法”たる都市計画法は重要だ。追録45・46号は2月に、47・48号は3月に発行されたが、今なお、複雑化・難解化が加速し続けている都市計画法について、数多くの論点を整理し解説していきたい。

2 『問答式 土地区画整理の法律実務』

コロナ禍のため、今年も7月の名古屋での編集会議は中止された。しかし、追録は今年も発行する予定だから、引き続き、補正設問を中心に執筆作業を進めている。

3 『Q&A 災害をめぐる法律と税務』

近時、防災に関する話題は多い。今年は災害対策基本法の改正もあるので、テーマは豊富だ。しっかり現実の問題点をフォローしながら、同書の執筆を強化していきたい。

第4 出版関係(2) 『シネマ48』を出版(7月)

1) 正月休みとGWが緊急事態宣言下に置かれた東京、大阪の映画館は大変。消毒・換気・マスクを徹底させてスクリーンを観ているだけの映画館がなぜ休業? 「私権制限の在り方」を巡るそんな疑問が解明されない中、逆に私は鑑賞時間と執筆時間がキープできたため、充実したラインナップで『シネマ48』を出版することができた。

2) 邦画は、史上最高400億円の興行収入を突破した『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』(20年)以外にも、名作がてんこ盛り。アカデミー賞での“頂上対決”が見ものなら、アイデア勝負の面白いB級映画も! 注目は表紙写真だが、これは現実? それとも、夢まぼろし・・・?

第5 阿部泰隆著『大災害対策法制における発想の転換—地震・津波・原発事故等—』の出版を祝して

1) 3月9日(火)、法律の分野で私が最も尊敬する阿部泰隆弁護士(神戸大学名誉教授)の新刊書『大災害対策法制における発想の転換—地震・津波・原発事故等—』(信山社)が届いた。その第6部では、1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災直後に驚異的なスピードで出版された、彼の大作『大震災の法と政策—阪神・淡路大震災に学ぶ政策法学』について、私が書いた「書評」が掲載されている。

2) 「御用学者」と「文句言い学者」が声高に叫び、“ノ一気な評論家と無責任なコメンテーター”が蔓延する中、彼の「学術書」は現実を見据えたうえで具体論のオンパレードだから私は大好き。少し不遜な言い方を許してもらえれば、“お互いにウマが合う”らしい。阪神・淡路大震災直後の弁護士としての私の各種実践とその中での各種法的提言のバックには、常に彼の存在があった。彼が「遺言シリーズ」と称する新刊書として、本書に続き『泉佐野市ふるさと納税訴訟』が出版されるそうだから楽しみだ。

3) 72歳になった私は現在、「都市再開発法50年」をテーマとして、『都市再開発法50年の軌跡と展望』(仮題)なる新刊書を企画し、現在少しずつ書き留めている。現状では映画評論書きを優先させているためなかなか進まないが、来年1月に73歳の誕生日を迎える頃には、何とかまとめたい。阿部先生は2024年の『行政法研究60年』を次の目標にしているようだからすごい。お互い“閻魔王が迎えに来るまで”、トコトン現実論にこだわり、あくまで具体的な提言を目指す“学術書”の執筆を続けたいものだ。

第6 大阪府・大阪市のパブリックコメントを提出(2月)

1) 大阪府と大阪市の「大阪府及び大阪市における一体的な行政運営の推進に関する条例(案)の骨子」について、1/25(月)14時から2/20(土)24時まで、パブリックコメントを募集した。まちづくりの法と政策をライフワークとしている私はすぐにパブリックコメントを作成し、2/2に「大阪府・大阪市副首都推進局 広域行政調整担当」宛に提出した。大阪府・大阪市の公表によれば、1404名(団体を含む)から2002件の意見が提出された(公表可1607件、公表不可395件)。

2) 私のパブリックコメントの全文は、事務所ホームページ(<https://www.sakawa-lawoffice.gr.jp/>)参照。その概要とそれに対する大阪府・大阪市の考え方は次のとおり。

NO.	提出意見概要	大阪府・大阪市の考え方
12	○ 日本の都市に関する法律は膨大であり、都市計画法の体系を一般市民が理解するのは難しい。今回の一元化対象となっている都市計画権限(7分野)について、わかりやすく説明・公表することが不可欠。	本条例で都市計画に関して、事務の委託の対象としているのは、都市計画の決定に関する事務で、政令指定都市が決定を行うことされているもののうち、大阪の成長・発展に必要な広域的な都市計画として、都市計画の基本方針や広域的な観点からのまちづくり、交通基盤の整備等に係るもの(=国土交通大臣同意が必要なものに概ね合致)としています。今後も住民の方にわかりやすく説明してまいります。

第7 中国関連

1 HSK4級・5級を受験(6/19)(4頁・写真⑧)

1) 2011年12月の中国語検定3級合格後、引き続き、2級を目指したが、これは難解。日本中国語検定協会が実施している權威あるそれに比べ、HSK(中国語能力検定“漢語水平考試”(Hanyu Shuiping Kaoshi))は、中国語教育部(日本の文部科学省に相当)が認定する世界共通の中国語学検定試験。これは実用的で会社での語学力のアピールや転職に断然有利だと知った私は、勉強のやり方を改め、2020年7/12にHSK3級を受験し、270/300(90%)で合格した。

2) それなら一気に4級に挑戦! そう思ったが、映画館が再開される中、映画評論家活動が忙しくなり、受験勉強は不発気味。しかし、コロナの第4波、変異株の拡大、3度目の緊急事態宣言、という展開下、再び4級挑戦への意欲がメラメラと。阅读は、実力十分。問題は听力だが、3級の「過去問」を毎日聴いているとほぼ全文の理解が可能に。これなら4級の「過去問」をみっちり勉強すれば合格は可能。

3) そこで6/19の受験申込みをしたが、あえて同時に5級も申し込み、問題集も購入した。4級の合格はここで“公約”しておくが、ひょっとして5級も最低合格ラインでひっかかるかも・・・? そうでなくとも、何点の不足かわかるので、それをバネに次々に再挑戦! そんな私だから、緊急事態宣言はもとより、その延長もウェルカム!

2 史さんがデリバリーの新会社を設立!(5頁・写真⑫)

1) 「SAKAWA人脈・日中ビジネス連絡会」を2020年8/12に開催したが、史さんとクッキーはその直後にデリバリーの新会社を設立し、起業した。コロナ禍でステイホームを余儀なくされる中、すぐにこんな商売を思いつき、実行するのはさすが。1年以内に4桁の特約店契約を目指すそうだから、Uber eatsや出前館に追いつき、追い越すのも間近! ?

2) 1/14早速、その取引先の1つである「麻辣江湖」からデリバリーが到着。四川料理特有の辛さと絶妙なおいしさに舌鼓! 次の“好吃料理”の到着を期待しています。



【写真①】

2020. 12/17 大阪電気通信大学・王先生と講義の録画収録



【写真②】



1/26 72歳の誕生日



藤元監督・渡辺プロデューサーと共に

【写真③】

3/9 第16回大阪アジア映画祭で『海辺の彼女たち』を鑑賞



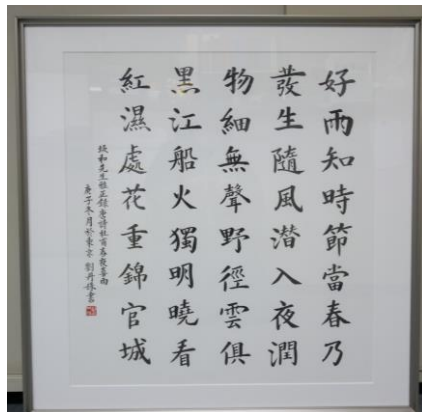
【写真④】

3/30 岡三証券・川野課長らと食事



【写真⑤】

3/16 愛光関西9期囲碁会



【写真⑥】

4/19 劉丹姝さんの書道作品「春夜喜雨」



【写真⑦】

4/2 オービック御堂筋ビルにて



【写真⑧】

HSK 4級・5級 テキスト・過去問集



【写真⑨】

岡林信康のアルバム『復活の朝』



【写真⑩】 5/5 焼肉「万両」にて



【写真⑪】5/4 天満橋で水上ピクニック



【写真⑫】1/14 デリバリー「麻辣江湖」の四川料理



【写真⑬】事務所4階のプライベートサウナが緊急事態宣言下で大活躍！



【写真⑭】『僕の帰る場所』 © E. x. N. K. K.



【写真⑮】『海辺の彼女たち』 ©2020 E. x. N. K. K. / ever rolling films

ワクチン接種の予約に成功！（5/24）

65歳以上の高齢者に対する、自衛隊による大規模会場でのワクチン接種の予約は5/17から開始。大阪は2万5千人の予約枠が26分で完了した。私はベテラン事務員のパソコン能力を頼りに、2回目の5/24の予約開始時間の15分前からサイトにアクセスし待機したところ、30分後に予約画面に繋がりと、無事予約できた。32分で3万5千人の予約枠が完了したそうだから、ギリギリのセーフ！さあ、「7月末までに完了させる」との菅首相“公約”の実現は？“ワクチン敗戦”からの脱却は？

『都市再開発法50年の軌跡と展望』の出版は？

1949年生まれ、1974年弁護士登録の私は、2024年に75歳、弁護士50年を迎える。過去、『がんばったで！31年』『がんばったで！40年』『がんばったで！45年』を出版してきた私は、『がんばったで！50年』のネタ仕込みを続けているから、その出版はきっと可能だ。他方、一足早く“施行50周年”を迎えた「都市再開発法」（70年制定）について、私は『都市再開発法50年の軌跡と展望』（仮題）を企画し、基本構想は完成したが、その執筆は頓挫中だ。焦る気持ちも強いが、松山英樹、大谷翔平、照ノ富士らの偉業に思いを巡らせながら、彼らの努力を見習いたい。乞うご期待！

72歳の誕生日 (1/26) (4頁・写真②)

今年の干支は牛。そんな新年の1/26、コロナ禍ながら無事に年男として72歳を迎えることができたことに感謝。中国の友人たちからの「生日快乐」のメールの他、事務員からのお花とケーキ、そして岡三証券の川野課長からの誕生日にホッとしたひと時を！ガンからの回復を確認できた今、中国旅行と執筆活動を、今後一層進めていきたい。

第16回大阪アジア映画祭で『海辺の彼女たち』を鑑賞 (3/9) (4頁・写真③)

1) 3/9 (火)、シネ・リーブル梅田 (第16回大阪アジア映画祭) にて、『海辺の彼女たち』を鑑賞。『僕の帰る場所』(17年) に続いて、私が出資した藤元明緒監督の本作が、『第33回東京国際映画祭』に続いて、『第16回大阪アジア映画祭』で上映。コロナ騒動によって“小さな映画”の公開が困難になっている状況下、5月1日以降、東京でも大阪でも劇場公開が決定したからすごい。今後の更なる広がり期待！なお、昨年(11/3)に続く2度目の鑑賞後も、私はタイトルは企画段階の『フォンの選択』のほうが良かったのでは、と思ったが、さて・・・？

2) 今年2月の“軍事クーデター”によって、ミャンマーは大変な状況になっているから、奥さんの実家がミャンマーにある藤元監督は心配だろうが、頑張ってもらいたい。私ができるのは義援金での協力くらいだが、“香港問題”と“ミャンマー問題”はしっかりウォッチングしていきたい。

愛光関西9期囲碁会 (3/16) (4頁・写真⑤)

1月、2月はコロナ禍のため中止したが、3/16 (火) 久しぶりに愛光関西9期会の囲碁会を開催。二宮、喜安、井上、坂和の4人が、亀井師匠の「二面打ち」の妙技に注目！4月、5月、6月も中止だが、再開を切望！

岡林信康のアルバム『復活の朝』を購入！ (3/16) (4頁・写真⑨)

1) 岡林信康の『友よ』は、1968年当時の学生運動活動家の愛唱歌。そんな“フォークの神様”が74歳にして全曲を書き下ろしたアルバムを発売！「中国の大気汚染がコロナ禍で改善し、青空が戻ってきた」というニュースが目にとまったことがきっかけで、すぐに1曲を書きあげ、半年ほどで立て続けに9曲ができあがったそう。

2) そのテーマは、恋愛、老い、友との別れ、輪廻するいのち、等、多彩。年を経ると共に視野が広がり、経験を重ねたことがよくわかる。岡林流に「ヒトラーもどき」を風刺した『アドルフ』は今の時代を反映して面白いし、ラストの『友よ、この旅を』は、『友よ』の続編(アンサーソング?)だ。団塊世代のオヤジ(じい?)は、こりゃ必聴！

岡三証券・川野課長らと食事 (3/30) (4頁・写真④)

株価が乱高下する中、岡三証券での「仕組み債」を中心とする新たな取引が増えている。そこで年度末の3/30 (火)、豆腐料理「八かく庵」で、昨今、集中砲火を浴びている官僚や政治家の接待とは無縁の懇親会を開催。青山美都神戸支店長も参加し、8時半の打ち切りながら多くの話題で盛り上がった。コロナ禍における株価の動向を注視しながら、さまざまな取引を成功させたい。

オービック御堂筋ビルにて (4/2) (4頁・写真⑦)

春爛漫、桜が咲き誇る中、4/2 (金)、オービック御堂筋ビルを所用で訪問。11階の立派な応接室のベランダに出る

と風が心地良く、景色も抜群。会合が30分でスナリ終了した後は、黄砂もなく絶好の天候下、久しぶりのサイクリング気分を満喫！そしてまた、御堂筋の今後の発展に注目！

劉丹妹さんの書道作品「春夜喜雨」(4/19) (4頁・写真⑥)

2020年3月に東京芸術大学を卒業し、同年8月から坂和奨学金の支援をしている、中国人の劉丹妹さんから4月19日に書道作品が届いた。就職祝としてプレゼントした高級カメラは日常の武器としてフル稼働しているが、近時は撮影ばかりではなく、さまざまなアートの製作にも励んでいるらしい。その一貫として、自ら書いて送ってくれたのが、中国の詩人・杜甫の漢詩「春夜喜雨」(春夜雨を喜ぶ)だ。

春夜喜雨

好雨知時節	当春乃發生
隨風潜入夜	潤物細無聲
野徑雲俱黑	江船火獨明
曉看紅濕處	花重錦官城

前半の4句は、「ちょうど良い時機を見定めたように静かに雨が降り、それが、万物を生育させている」、後半の4句は、「黒一色に包まれた夜の闇の中で、唯一明るく光るいさり火。そのいさり火の一点の赤い光が、翌朝の雨に濡れた紅色の花につながり、この紅色の花が成都の町いっばいに鮮やかに咲いていることだろう」というもの。その風景と情緒をかみしめながら、この名作を味わいたい。

天満橋で水上ピクニック (5/4) (5頁・写真⑩)

事務所すぐ近くの天満橋・川の駅「はちけんや」前には「まちなか水辺で水上ピクニック」がある。好天気の下、川の上にブカブカ浮かんでの軽食や雑談に最適！GW中の5/4 (火) 10時から、史さん、クッキー、春日クンと4人で早速試乗。さて、30分間の密談(?)の内容は？

焼肉の「万両」で舌鼓 (5/5) (4頁・写真⑩)

事務所のすぐ近くにある、日本で一番おいしくて安い焼き肉店「万両」が、緊急事態宣言下のGW中、酒の提供なしで、お昼の12時から営業。5/5 (水) に早速、史さん、クッキー、伊藤日実子、その彼氏と5人で食事。マスクをしながら約2時間、情報交換と好吃焼肉に大満足！宣言の延長・再延長に伴って、同セールも延長。客足は伸びる一方だから、私も是非もう一度食べたいものだ。

コロナ禍、4Fのサウナが大活躍！ (5頁・写真⑬)

1) 私は昔からサウナが大好きだったが、忙しい時期のフィットネス通いは週1度がせいぜい。しかし、2016年3月に都島区の3階建てに引っ越し、自宅と事務所の真ん中にある帝国ホテルのフィットネスクラブに入会した後は、毎日のサウナを満喫していた。2019年8月に再度事務所から徒歩1分の朝日プラザ12階のマンションに引っ越した後も、毎日自転車通っていた。ところが、昨年5月、今年1月、今年4月と3度にわたる緊急事態宣言の中、クラブは休業。毎日のサウナ通いができなくなった。

2) そこで大活躍したのが、約20年前にコートビル4Fに設置したプライベートサウナだ。市長室にサウナを持ち込んだ某市長が非難されたのは当然だが、自分の部屋なら何でもOK！バブルの頃は、夜中に北新地から4Fに戻り、サウナ、シャワー後はバタンキュー。翌朝そのまま3Fの執務室へ。そんなパターンもあったが、それははるか昔のこと。

3) それはともかく、よくぞ20年間、一度の故障もなく長くしてくれるプライベートサウナに、心から感謝！

映画評論家『SHOW-HEY』の部屋～2021年上半期から

<アカデミー賞頂上対決『ノマドランド』vs『ミナリ』>

1) いくらキレイごとを言っても、芸術の世界(あり方)が政治の影響を受けるのは必然。古典派を愛し、印象派を退廃的のみなしたヒトラーが、気に入らないゴッホやピカソ等の作品を集めて「退廃芸術展」を開催したことや、戦時中の軍国主義一色に染まった日本の映画・絵画・写真・小説等を見ればそれは明らかだ。そんな政治権力の意向に逆らえば、山本薩夫監督の『戦争と人間』(3部作)(70、71、73年)に描かれたような迫害も!世界が激変を続ける昨今、アカデミー賞もその影響を受け、「白いアカデミー」や「黒いアカデミー」と皮肉られたが、第93回アカデミー賞は、アジア系?

2) ①コロナ禍におけるハリウッド作品の公開の延期、②Netflixに代表されるネット配信による家庭での映画鑑賞の拡大を受けて、第93回アカデミー賞は『ノマドランド』と『ミナリ』の頂上対決に。『ゴジラvsコング』による“地球最大の頂上対決”もあなた自身の目で楽しんでもらいたいが、ある意味で、中国vs韓国の頂上対決ともいえるこの闘いは、中国の勝利に!

3) 韓国人女優ユン・ヨジョンの助演女優賞に対し、『ノマドランド』は、作品賞・監督賞・主演女優賞の3冠をゲット。ノマドとは“遊牧民”のことだが、キャンピングカーに最小限の家財道具を積んで米大陸を渡り歩く“現代のノマド”が生まれたのは一体なぜ?トランプ大統領の登場とともに、“ラストベルト(錆びついた工業地帯)”の存在と問題点が提示されたが、子供の頃にモンゴル草原に憧れた中国出身の39歳のクローエ・ジャオ監督は、米国の西部劇と西部開拓の歴史を知る中で、現代のノマドへの問題意識を強め、3年間も実際にノマドと生活する中で同作を完成させた。

4) 2017年の某映画祭での「私は西部劇を取っている北京人」との自己紹介がユニークなら、本授賞式での「三字経」から引用した挨拶「人之初 性本善」(人は生まれながらに善良。正反対のことが起きようとなお善良)も超異色!『無依之地』と彼女の快挙は中国国営テレビ(CCTV)等で報道されず、微博でも検索不能になっているのは残念だ。私はこの名作が中国を含む全世界で大ヒットすることを願いたい!

2021年5月8日記

<『海辺の彼女たち』と『僕の帰る場所』の問題提起に注目!(5頁・写真⑭⑮)>

1)「Sakawa Law Office」がチラシに載る藤元明緒監督の『海辺の彼女たち』は、ベトナムからやってきた3人の技能実習生の生態と思もかけない妊娠騒動を描いた注目作!『フォンの選択』という当初の仮題は、雪深い青森の海辺での撮影が続く中、「日本の片隅で不法に働くベトナム人女性たち一きらめく未来を夢見て、過酷な現実と闘う姿に心揺さぶられる物語」というテーマの中で変更されたが、その展開は?そして、フォンの選択は?

2) 私が即座に出資を決定した藤元監督のデビュー作『僕の帰る場所』(17年)は、日本在留のミャンマー人家族を巡る切なくも心温まる物語だったが、その撮影の中で彼はミャンマー人女性と結婚。3/9の大阪アジア映画祭では、久しぶりに子連れのおさんと再会できた。彼らが結婚した当時のミャンマーは総選挙に勝利したスー・チーさんが国を挙げての民主化に邁進し、日本企業の新たな進出も盛んだったが、2021年2/1の軍事クーデター後は大混乱。自国民への弾圧も最悪の事態になっている。そんな状況下、『海辺の彼女たち』の上映は日本全国に広がり、大阪では「シネ・ヌーヴォ」で5/8~14まで上映された。今後のさらなる上映の広がりを期待したい。

3) 昨年11月の総選挙でのスー・チー氏率いるNLD(国民民主連盟)の圧勝は不正だと主張してクーデターを起こしたミャンマー国軍は、1年間の非常事態を宣言し、スー・チー氏を拘束した。大規模な反対デモを展開する市民への弾圧はすごい。そんなミャンマーも大変だが、コロナ禍では多数のベトナム人の技能実習生の失業問題も深刻。低賃金の労働力として期待された技能実習生は急増し、2016年末には41万人に。その半数の22万人をベトナム人が占めていたが、低賃金、パワハラ、コロナ失業による失踪が急増。また、待機中の希望者が急増する中、コロナ対策のため入国停止の日本から、制限のない台湾にシフトしているようだ。

4) そんな社会問題にタイムリーにフィットしたのが本作。そのため、本作は日経や読売新聞等で大きく紹介され、朝日新聞は本作と前作を結びつけて紹介したうえ、収益の寄付活動も紹介している。こりゃ必見! 2021年5月8日記

<ミニコラム>(株)グローバルダイニングのコロナ特措法違憲訴訟を考える

1) 3/22、飲食チェーン・(株)グローバルダイニング(GD)は、コロナ特措法に基づく時短要請に従わなかったとして施設使用制限命令を出した東京都に対し、1円×4日間×26店舗=104円の損害賠償を求めて、「コロナ禍、日本社会の理不尽を問う」、コロナ対策特措法違憲訴訟を提起した。本稿執筆時の5/21、東京・大阪等は3度目の緊急事態宣言下であり、埼玉・千葉等はまん延防止等重点措置の実施区域にあるが、それぞれの意義と効果、その違い等を正確に理解している人は少ないはず。緊急事態条項を定めることの是非はともかく、憲法上“私権制限”は難しいが、“公共の福祉”のためなら一定の制限は可能だ。すると、コロナ感染防止のための私権制限はOK?コトはそれほど単純でない中、改正特措法に緊急事態宣言下で時短要請に応じない場合の罰則や「まん防」等の制度が創設された。TVでは連日各界の専門家やお笑い芸人にその“論点”を語らせているが、そのレベルの低さは目を覆うばかりだ。

2) 最初の緊急事態宣言下、大幅に人流が抑制された昨年に比べ、今年のGWはイマイチ。日本国民の忍耐力もポチポチ限界に?生活必需品とはナニ?野球・相撲はOKなのになぜ映画はダメ?そんな議論はもとより、一貫して“狙い撃ち”されている飲食店への休業・時短要請の不合理性は明白。酒類の提供禁止は論外で、路上飲みの増大がオチだ。まともな

休業補償が出るなら夫婦二人の店は休業が得策。そんな声の一方、チェーン店の恨み節は?私ならそんなやり方に猛反発!営業を続けるぞ!

3) GDもそう考えたのだろう。5/18、時短要請に応じなかった23店舗に休業命令を下した東京都に対し、今回は処罰(最大30万円の過料)を覚悟の上で通常営業の継続を宣言!全面対決の第2ラウンドが始まった。誤解を恐れずに言えば、外出自粛と人流抑制はあくまで要請。消毒・アクリル板・マスク等の感染防止対策の徹底が重要で、休業も時短も不要。酒類の提供禁止等の姑息な手段も無用。飲食店の倒産と失業者の増大という社会経済的損失の方が問題は大きい。そもそも、なぜ日本は“ワクチン敗戦国”になったの?“欲しがりません勝つまでは!”の復活も、「竹槍で突撃!」の命令もご免だ。欧米と2桁も違う、一日数千人の感染者に日本の医療はなぜ対応できないの?その問題点の究明が先だ。なぜその間に誰も切り込まないの?

4) 104円も、近く命じられる過料も少額だが、本訴訟が提起した論点は根源的。新選組まがいの都職員による見回り隊活動は一体ナニ?法律を改正し罰則を定めた以上違反は許さない、との考えもわかるが、東京都も日本国もコロナの根本問題の解決に精力を注入すべきだ。

2021年5月21日記

弁護士兼映画評論家 坂和章平の出版物の紹介

<まちづくり本、法律書>



<実況中継シリーズ全4冊>



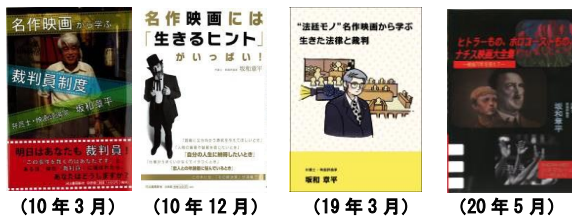
<その他の著書>



<コラム集>



<名作映画シリーズ>



<中国語の著書>



<『シネマルーム』シリーズ全48巻>

